

ENCCのメンバーが語る、教育体制

卒後・キャリア・基礎・地域連携、4つの領域でサポート

看護部管理室 看護部長 崎田智美
教育担当副部長 山本美津子
ENCCの皆さん

愛媛大学医学部附属病院看護部ナースキャリアセンターは卒後教育としての新人教育をはじめ、キャリア教育、基礎教育と地域連携教育の4領域を連動させ、各病棟・部署との連携で看護職員の教育・キャリア支援を行っています。当院の特色として教育担当専従看護師が所属。臨床で10年以上の経験があり、病棟で新人指導にも携わるなど人を育てることに情熱と関心があり、師長などの推薦を得て着任します。今回掲載された福井さんと水島さんはコロナ禍最後の世代。実習経験が少なく集合教育だけでなく病棟における分散教育で、進捗具合を確認し、躓きや不安に積極的に耳を傾けメンタルサポートも行っています。また看護師の就労期間も延びる中、日本看護協会が推進する「働くことと学ぶことの一体化」に沿って支援を進めています。子育てや介護などのライフイベントに対応した働き方を続けながら、タイミングに応じたキャリア支援ができる教育体制を整えています。特定行為研修の教育機関として、また専門看護師・認定看護師の人材育成や地域医療への貢献も行っています。

令和6年度から、看護学専攻と連携し、大学院において「病院で教育を担当する看護師のための看護教育プログラム」を開講しました。そのプログラムでは、それぞれの看護師のニーズに沿った質の高い教育が行える能力を獲得できます。ENCCの専従看護師として現場の指導に関わりながら、同時に大学院で看護教育に必要な哲学・倫理・理論の学び直しができ、教育担当者としてスキルアップにつながっています。その学びは病棟の指導者へも還元され、連携をとりながら屋根瓦式の手厚い指導体制ができることを期待しています。



左から魚見副看護師長、今井看護師、山本副看護部長、崎田看護部長、竹森看護師長、矢野看護師、白石看護師

看護師採用案内

私たちと共に患者さんに寄り添う看護を実践しませんか？ ご応募お待ちしております。

※詳細は二次元コードを読み取ってご確認ください。



編集後記

看護職に焦点を当てた本特集号は、広報委員長念願の企画です。看護師不足が叫ばれる中、愛大病院には成長を目指す看護師が集まっています。教育に携わる教員、復職やUターンを経た看護師など、多様なキャリアの実例を紹介。卒後・キャリア・基礎・地域連携、4つの領域での支援体制も整っており、特に看護師を目指す方にとって必読の内容です。

広報委員会委員長
熊木天児



今月の表紙

当院で活躍する看護師たち

INVITATION

78

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

愛大病院で叶える看護師の理想

- 01 | 関係部署とENCCが連携し、成長を支援してくれました
- 02 | 臨機応変な教育で、基礎看護技術を着実に習得できました
- 03 | 高い意識をもつ働きやすい職場で、安心して働いています
- 04 | 2回目の復帰も歓迎してもらい、柔軟な職場環境です
- 05 | スタッフが目指すキャリアを全力で支援したいです
- 06 | 看護教育やシミュレーション教育を通して指導者を育成しています
- 07 | 卒後・キャリア・基礎・地域連携、4つの領域でサポート



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)

情報発信中!

愛媛大学医学部附属病院
ホームページ医学部及び附属病院
Instagram愛媛大学大学院医学系研究科・医学部
ホームページ

新人看護師が語る卒後教育

関係部署とENCC*が連携し、成長を支援してくれました

看護師 玉井佑果 永木美唯

小中学生のときに二度、当院で手術を受け、「自分もこの看護師になり、同じように看護したい」と思ったのが看護の道に進みきっかけでした。入職後も、ENCCでの講義やワーク、グループ練習に加え、病棟での分散教育は先輩が手厚く指導してくれました。(玉井佑果)

1年目に受けた新人教育は詰め込みすぎず、一つ一つの技術が確実にできるようになってラダー方式で次のステップへ進みます。座学と演習が一体となって、焦ることなくじっくりと習得。全員が同じレベルの知識と技術が身に付けられるプログラムです。社会人としても成長できた1年間でした。(永木美唯)



PROFILE

(写真左) たまいゆうか◎高知大学医学部看護学科を卒業後、2024年4月より勤務。趣味は温泉、ドライブ。
(写真右) えいきみゆ◎松山看護専門学校を卒業後、2024年4月より勤務。同期看護師や先輩看護師と協力し、良い看護が提供できるよう励んでいる。

2年目看護師が語る、フォローアップ期間

臨機応変な教育で、基礎看護技術を着実に習得できました

看護師 水島和花菜 福井大氣

当院を選んだ理由は、特定機能病院として診療科数が多く、専門的で深い看護が身に付けられるからです。1年目の卒後教育が今の2年目に活かされていて、いずれ指導する立場になることを見据えて今後も、上司や先輩、ENCCの教育担当専従看護師と一緒に頑張っていきます。(水島和花菜)

救急やICU所属の看護師を目指し、県内で唯一の大学病院で、特定機能病院である当院を選び、現在は小児科に所属しています。今は救急に通じるオールマイティさが求められる小児科を極めたいと思うくらいに、やりがいを感じています！(福井大氣)



PROFILE

(写真左) みずしまわかな◎松山看護専門学校を卒業後、2023年4月より勤務。当院に入ってから良かったことは、学びながら働くことができる環境が整っていること。
(写真右) ふくいたいき◎四国中央医療福祉総合学院看護学科を卒業後、2023年4月より勤務。子どもと家族を思いやる心を大切に、看護に真摯に向き合っている。

再スタートを選んだ看護師が語る、キャリア教育

高い意識をもつ働きやすい職場で、安心して働いています

看護師 鳥井祐希

川崎医科大学附属病院(岡山県倉敷市)で6年間の勤務を経て、愛媛に拠点を移すことになり転職。当院で働き始めて2年ほどになります。ここは常にコミュニケーションを取り合い、一人の患者さんをチームという病棟全体で看ると意識が高いです。また、忙しい中でもしっかりとカンファレンスを実施し、経験の長い人だけでなく、2~3年目の若手からも発言があり、心理的安全性が担保された話しやすく働きやすい環境が作られています。自分が不安だと思ふ内容については、1年目に受ける研修に申し込めるようになっていて、病院によって体制は様々なので、環境に早く慣れるためにも学ぶ機会があるのは助かります。



PROFILE

とりいゆうき◎2017年川崎医療福祉大学看護部卒業後、同年に川崎医科大学附属病院に入職。2023年4月より勤務。趣味はキャンプ。

子育てしながら働く看護師が語る、仕事との両立

2回目の復帰も歓迎してもらい、柔軟な職場環境です

看護師 長谷部彩香

5年間の外科病棟勤務中に結婚し、1人目を妊娠出産しました。1年間の産休・育休の後、内科病棟に復帰し、1年と少ししてから2人目を授かり、再度1年間お休みをし、今は復帰して4年目になります。当院には豊富な勤務形態から自分にあったものを選び、家庭のスタイルに合わせて出勤・退勤ができる理解のある職場環境です。子どもが幼いと体調不良等の予想外のトラブルも多いです。そういうときはまわりの看護師が協力してくれます。看護師長も「家庭がうまくいかない仕事との両立は難しいからね」と快くお休みの相談にもって下さいます。



PROFILE

はせばあやか◎鳥取大学医学部保健学科看護学専攻を卒業後、勤務開始。当院に入って良かったことは、苦楽を共にできる同期と出会えたこと。趣味は、子どもが始めたサッカーの練習を一緒にすること。

現場も管理もわかる副看護師長が語る、キャリアデザイン

スタッフが目指すキャリアを全力で支援したいです

副看護師長 矢野寛明

地元愛媛が大好きなので転勤のない職場と、最先端の医療に接することができるという理由で当院を選びました。患者さんだけでなく、患者さんの家族も支えようと、7カ月かけて救急看護認定看護師の資格を取りました。その後、院内外で講師を任されることも多くなり、論理的な説明、言語化ができるよう今は大学院で学んでいます。これも当院の整備された環境と、職場の上司と同僚の理解と協力に恵まれたからこそ、できる学びだと思えます。現場の仕事と管理の業務を任される副看護師長という立場になって、皆が働きやすい職場づくりはもちろん、それぞれが目指すキャリア・キャリアアップの支援も手伝いたいと考えています。



PROFILE

やのひろあき◎愛媛病院附属看護学校(現:愛媛医療センター附属看護学校)卒業後、2009年愛媛大学医学部看護学科3年次編入。卒業後、当院に入職。救急医療と集中治療室を担当するICU2に所属。現在は2号館7階病棟に勤務。

看護部・看護学科とシームレスな連携による生涯学習

看護教育やシミュレーション教育を通して指導者を育成しています

総合臨床研修センター 助教 内藤知佐子

研修医の育成がセンターの役割の中心ではありますが、看護師、薬剤師など多職種医療従事者の育成もしています。近年、コロナ禍を経て入職してきた世代は実習だけでなく、サークル活動やアルバイトなどの社会経験も少ないため、対人関係スキルに不安を抱いている人が多くいました。そこをフォローするコミュニケーション研修により、緊張感のある医療現場で「報・連・相」できるように研修を実施。また被害者・加害者にならないよう、安全に実習ができるようハラスメント研修にも力を入れています。縁あって当院で働く看護師たち一人一人を大切に育成し、患者さんに学ばせてもらいながら、伴に歩む看護師になって欲しいと考えます。



PROFILE

ないとうさきこ◎1999年国際医療福祉大学保健学部看護学科卒業、同年東京大学医学部附属病院勤務。京都大学医学部附属病院看護部管理室勤務、教育担当を経て、2022年より現職。「教える」に悩むナースを応援する指導力向上ブックなど著作物多数。